

2007年 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第6戦 RACE REPORT

<第6戦・富士スピードウェイ>

8月25日・26日

<観客動員数>

25日/8,800人・26日/21,900人

<TV放映> フジテレビ「モタスポS!」レース終了8日後月曜日 25:10~26:10

□D o C o M o TEAM DANDELION RACING

ドライバー (#40) ビヨン・ビルドハイム (#41) ファビオ・カルボナーネ

チーム総監督 村岡 潔

チーフエンジニア (#40) ロブ・アーノット (#41) 吉田 則光

□HARD

シャーシ LOLA B06/51 FN06

エンジン HONDA HF386E V8 3000cc

通信機器 NTT D o C o M o FOMA

□MAIN SPONSOR

株式会社NTTドコモ NTT D o C o M o

株式会社NTTドコモ関西 NTT D o C o M o 関西

株式会社NTTドコモ東海 NTT D o C o M o 東海

株式会社NTTドコモグループ NTT D o C o M o G r o u p

□SPONSOR

田中オートサービス TANAKA

株式会社和光ケミカル WAKOS

京都機械工具株式会社 KTC

山田辰株式会社 THE MAN SPIRIT

パーカル株式会社 PERCUL

株式会社親和 R i c h

有限会社マジックスクエア MAG I C S Q U A R E

レカロ株式会社 RECARO

エイティーエス株式会社 A T S

玉置商事株式会社 TAMAKI

モトローラ株式会社 MOTOROLA

株式会社フュートレック F U E T R E K

三菱電機株式会社 M I T S U B I S H I

株式会社ルネサステクノロジ R E N E S A S

株式会社ソフトウェアクレイドル C R A D L E

シャープ株式会社 S H A R P

株式会社EXR J a p a n E X R

アーム株式会社 A R M

株式会社エイチアイ H i

フォーミュラ・ニッポン 第6戦 <予選>

8月25日(土) ・天候/晴 ・出走台数/21台

猛暑の富士スピードウェイ。トップタイムからほぼ1秒以内でひしめき合う大接戦。
尻上がりに好調のビルドハイム選手は10位、アタック不発のカルボーネ選手は19位。

世界一のストレートを誇る富士スピードウェイは超高速域の第1区間、中高速コーナーが続く第2区間、そして低速コーナーが連続するテクニカルな第3区間で構成されている。

●公式予選1回目(10:00〜45分間 COURSE/ドライ)

午前10時ジャスト。残暑厳しい快晴の富士スピードウェイでフォーミュラニッポン第6戦の予選が行われた。ビルドハイム選手、カルボーネ選手ともセッション中盤までユーズドタイヤでマシンバランスを微調整しながらタイムアップを繰り返した。終盤には2セット目のニュータイヤでのアタックを開始。第1、第2区間は抜群のバランスでトップクラスのタイムをマークするも、第3区間でのバランス不調でタイムが伸びず、ビルドハイム選手15番手、カルボーネ選手19番手で午前中の予選を終えることとなった。

●公式予選2回目(14:05〜45分間 COURSE/ドライ)

午後2時5分。気温は午前中をはるかに上回る32度、路面温度も46度と過酷なコンディションの中で予選2回目がスタートした。両選手とも午前中の予選結果を踏まえ、第3区間に重点を置いたセッティングで挑んだ。ビルドハイム選手はマシンのフィーリングが非常に良くなり大きくポジションアップが望めたが、アタックラップにおけるストレートスピードの伸びが悪く10番手に留まった。一方、カルボーネ選手は細やかな空力バランスの調整に時間を費やしてしまったため、アタックラップに入る直前にチェッカーフラッグが出てしまい、ワンチャンスのラストアタックができないまま19番手に終わってしまった。

★第6戦・総合予選正式結果 40/10位(出走21台)。ベストタイム/1分27秒469
41/19位(出走21台)。ベストタイム/1分27秒973

フォーミュラ・ニッポン 第6戦 <決勝>

8月26日(日) ・天候/晴 ・出走台数/21台

前半戦6位走行のビルドハイム選手、正攻法のレース中盤ピットイン以降のペースが上がらず8位フィニッシュで1ポイント獲得。カルボーネ選手は安定した走行で15位。

周回65周、走行距離300kmのロングディスタントレースに設定された第6戦。朝のフリー走行で上位選手の規定違反があり、ビルドハイム選手のグリッドが一つ上がって9番手からのスタートとなった。

●決勝(8/26 14:29~ COURSE/ドライ 65周)

スタート直前の気温32度、路面温度47度は昨日の予選2回目と同レベルのコースコンディション。午後2時25分、全車グリッドにつきフォーメーションラップが開始されたが、カルボーネ選手のエンジンがストール。エンジン再始動後、フォーメーションラップを続けたが、規定により最後尾からのスタートとなった。

そして午後2時29分、シグナルのブラックアウトとともに決勝がスタートした。その直後、上位2台のマシンがエンジンストールと接触でストップ。両選手は巧みにマシンをコントロールしてすり抜けに成功。ビルドハイム選手は6位、カルボーネ選手は16位にまで順位を上げた。2周目から4周にわたって事故マシンの破片回収のためにセーフティーカーが導入され、レース再開は6週の終了時点からとなった。

ビルドハイム選手は前を行く立川選手を猛追しバトルを繰り広げる。16周目には前を走る本山選手よりコンマ2秒程度早いラップタイムでパスし5位に。一方のカルボーネ選手もロケットスタートの勢いを持続し素晴らしいラップタイムでレースを続けた。

そして27周目にビルドハイム選手は給油とタイヤ交換のためにピットイン。ミスなくピット作業をこなしコースに復帰。カルボーネ選手も31周目にピットイン。両選手とも交換したニュータイヤのパフォーマンスを余すところなく発揮し、灼熱の65周を完走。ビルドハイム選手は8位入賞、カルボーネ選手は15位という結果を残した。

★第6戦・決勝正式結果 40/8位(21台中) 。 ベストタイム/1分29秒836
41/15位(21台中) 。 ベストタイム/1分29秒951

■ドライバーズコメント

ビルドハイム選手「予選の時はテクニカルセクションでのバランスに少し手こずりましたが、決勝レースのマシンバランスはいい感じに仕上がっていました。特にガソリンが軽くなってからのバランスは非常に良くて常に安定してアタックをすることができました。ホンダエンジンの燃費の関係から給油時間が長くなり、順位を落としてしまいましたが、何とかポイントを獲得することができました。このレースのデータを生かして次戦はより良い結果を残します。」

カルボーネ選手「フォーメーションラップのスタートの時にエンジンがストールしてしまい最後尾スタートとなってしまいました。すぐに気持ちを切替えレースに集中するように努力した結果、最高のスタートを切ることができました。スタート時のタイヤは非常にアンダーステアが強く、思うようにペースを上げられませんでした。タイヤ交換をした後は症状も改善し、スパートをかけることができました。しかし時すでに遅く、入賞に至らなかったのが残念です。この原因をさらに解析し対策を考え次戦に挑みます。」

■吉田チーム監督コメント

「スタート前にカルボーネ選手にトラブルはあったものの、両選手とも直後に起こった大クラッシュを冷静に処理し、本当に最高のスタートを見せてくれました。ビルドハイム選手のマシンは非常によいバランスを保ち、終始安定したラップタイムを刻むことができましたが、燃費とギアレシオに更なる検証と対策が必要となり今後の課題となりました。」

カルボーネ選手に関してはマシンにアンダーステア傾向があり、タイヤ交換後は何故かその症状が消えました。今後はその原因の解析を進めていきたいと思えます。

今シーズンも残り3戦となりましたが、マシンのさらなる熟成を進め全力で戦い続けます。」